

軽井沢信濃追分の自然をこよなく愛した芸術家・河村目呂二にとって、秋は見目にも美しく、味覚にも美味しく、最も愛おしいものに満ちあふれた季節でした。



目呂二と同郷、岐阜県出身の岡田英人氏は、目呂二と同様に追分の自然に魅せられ、目呂二と同じく信州に居を移して活動する、ナチュラル・ガーデナーです。

河村目呂二・浅間山スケッチ
昭和10年代/紙に水彩/個人蔵

半世紀という時が過ぎても、二人の見つめる追分の自然の美しさは、何ら変わらないものなのかもしれません。

今回、あたかも在りし日の目呂二の語りかけに岡田氏が応えるかのように、「絵画」と「草木」というそれぞれの表現方法によって、追分の秋を紡いでみようと思い立ちました。

浅間山の麓、旧き宿場の風情を現代に甦らせた“村の古本屋”追分コロニーが、この秋のひとつき“ブックギャラリー×ブックガーデン”として美しくも不思議な空間へと変貌します。



河村目呂二・俳画(あけび)「小供がある すみやき小屋」
昭和20年代/和紙に墨・水彩/個人蔵

俳画とスケッチと秋の草木たち

河村目呂二 × 『あけび、秋いろ、浅間山』 × 岡田英人

くかわむら めろじ > [別号 龍興(りゅうこう)]

1886年 岐阜県揖斐郡宮地村(現 池田町)に生まれる。
1909年 東京美術学校(現 東京芸術大学)彫刻科入学。
美校卒業後『目呂二』の号を用いて、各種人形の製作、雑誌の装丁、広告デザインなど、彫刻家の範疇に留まらない、幅広いジャンルの活動を展開し、大正モダンに沸く東京を大いに楽しませた。
1944年 戦災を逃れて軽井沢町追分に疎開。
旅館「油屋」の一面に仮屋を建てて暮らしていたが、浅間山と四季折々の自然に抱かれた追分での定住を決意して、浅間神社の程近くに草庵「木通庵」を結ぶ。
1959年 晴耕雨耄の暮らしを営んでいた秋の日の夕暮れ、発作に倒れてそのまま静かに息を引き取った。
享年73歳。

目呂二ライブラリィ

<http://www.semino-design.com/e70.html>

2010 10 / 28 (木) - 11 / 3 (水・祝)

12:00PM~5:00PM (最終日4:00PMまで)

本のまち・軽井沢 立ち上げ記念

村の古本屋 追分コロニー

<http://www11.plala.or.jp/colony/>

<おかだ ひでと>

1968年 岐阜県各務原市に生まれる。
幼少時代は祖父の後について野山や田畑を歩きまわり、故郷の豊かな自然の中を遊び場として育つ。
大学卒業後、アルミニウムの研究開発に従事。
在職中に独学で始めた自然な庭造り、農薬や化学肥料に頼らない園芸をライフワークとすることを決意する。
2008年 追分宿の自然と宿場町の風情に魅了され、『永楽屋ガーデン』を設立。
地域の自然環境をよく観察し、できる限りその土地に自生する雑木や宿根草を用いること、そして人と動植物とが永続的に共生できること、すなわち自然の理に適った、真の意味での“豊かな”庭造りを心がけて活動している。

永楽屋 garden

Tel/Fax 0267-32-0253 Mobile 090-2346-6877

e-mail: eilakuya_garden@polka.ocn.ne.jp

永楽屋blog: <http://eilakuya.exblog.jp/>

中山道追分宿
堀辰雄文学記念館斜メ前

